

～アンケートにて皆さまからいただいた意見～

- 今後、市の車(日常使用車)と移動支援の車を同一にすることが出来たらと思っている。移動支援の車は使用日時が限られているので可能と思うが・・・1つの団体で車を持つのは無駄(使用していない時間が多い)が多い。各団体の金銭的負担もなくなる。
- 個人的に受けた別の研修にて、市職員と社会福祉協議会とほとんど話すことがないということを知りました。その研修の中で、お互いにもっと協力をしていく必要があると講師の方が言っていました。国東市は、市役所と社協がうまく連携していると感じます。これからは嶋田先生が話されていたように、交通関連との話をもっと出来ていくといいかなと思いました。嶋田先生の話はすごく学ぶことが多かったので、他の職員にももっと聞いてもらえるといいと思いました。
- 寄ろう会の必要性を強く感じた話だった。やはり諸機関の協力が必要だと思う。
- 支援する側、される側、お互いにとって何か楽しみを生み出せる方法、考えていきたいです。
- 国東市は規制にとらわれず上手な運用がなされていると聞きあらためて感謝。人口減の時、ネットワークを広げて効率化を図ることを聞く。これらのことから、地域は特定されるかもしれないが、スクールバスの活用を広げることも、人、物、金から優位ではないかと思われた。検討の一つとして。
- 急発進防止装置より。オートマ車×、マニュアル車○の方が良いのでは？
- 交通政策は、ムズかしくて、理解しにくいものと考えていました。しかし、分かりやすく、新たな方向性も提示してもらえ、非常に良かったです。今後の参考にしていきたいと思います。
- 追加スライドの①、拠点→バス移動について実現すれば、地域、行政、事業者にとってwin-win-winな像を描けると思います。ただ国東の場合は“バスに乗ること”自体におっくうな方が一定層いて、高齢者の中にも多くいらっしゃると思います。そうした方々に“バスを使うこと”“公共交通を使うこと”がクール(楽しい)であると認識してもらう必要があると思います。モビリティマネジメントの推進が必要だと思います。
- 外出支援等の法令や細かな内容はもちろん、地域の活性化等に参考になりました。
- 国東市の社会福祉協議会と市役所がうまくかみあって独自の判断で取り組んでいる点が評価に値するという賞賛を得られているのは同慶の至りです。対馬市での試みも参考にして知恵を出してゆくといった柔軟性も求められることであると思います(問題はタクシー業者との折り合いですが・・・)
- 嶋田先生の賞賛に心強く思いました。今後もしっかり取り組んでいかねばと思いました。
- 外出支援をめぐる「これまで」と「現在」について大変よく理解できました。自治体の無責任体制については市でも検討をお願いしたい。嶋田先生が指導している長崎の例をもっと知りたい。
- 我々、若い世代も手伝うべきだと思いました。国東市の各谷には少ないけど、生活している若い世代がいると思います。最初は、だまされた形でも良いと思うので、もちろん自分から進んで参加するのが理想ですが、協力させる(巻き込める)ような仕組みも必要ではないでしょうか？
- 全てが人口の減少→公共交通機関への圧迫。この問題は人口が減少する・目に見えてる問題に対し自治体が十分に対策をとらなかったことに起因していると思います。全てが人口の減少です。「1%戦略」をとり組むしかない。地域住民も人口減少を真剣に考えるべきである。
- 10人乗りのワゴン等にバスを改変すべきかな(空気を運ぶのでなく)。西小跡を武溪交流センターにしてほしい。中には公民館、〒郵便局、秀溪園、もちろん武溪の会等入ったらいいかな。そのためにも、4月以降リフォーム 例えば調理室等して頂けるといいな。
- 私の聞きたい話と少しずれがありました。私達のサロンではこの話はまだまだ先の見えない事です。
- 路線バスは乗車人数(2～3人位)がいつも少ない。大きいバスを使うより小型の車種にして回数をふやしてほしい。
- 各地区の月1回計画サロン事業の参加者を主体として買物ツアー(市のバスを利用させてもらう)を行うというのは？買物目的で参加者が増えると思うのですが・・・この点は自治体の協力が必要ですが・・・。またはスーパーと提携する等。
- 在宅医療・介護の仕事をしています。外出支援で困っている方がたくさんいます。これからどうなっていくのだろうか懸念しています。本日の先生の講義で何か良い方向性がみいだせればいいなと思いました。
- 市町村有償旅客運送+委託先(10人乗りワゴン車での実施)。市が運営主体となって実施する制度を検討していただきたい。地域(公民館単位)も取り組みやすいかと思う。買物支援を支援する事業者に対する補助拡充の充実。市と商工会との連携。市の組織に交通・移動を専門とする課が必要ではないだろうか。
- スクールバス活用の件、検討をお願いしていますが具体的な問題点、見通しを教えてください。教育委員会、政策企画課等でプロジェクトチームをつくって実現に向けて前進してもらいたいです。運転士の給与待遇等、問題点は多くありますが費用対効果を考えると得策だと思いますが・・・。具体的には運転士のヒマの時間帯(昼間9:00～15:00)日に2便～3便運行していただきたいです。
- 現在のコミュニティバスの有りようの見直しについてはどのように考えているのか。先進地視察を含めて報告してほしい。
- 地域づくりにスタッフとして関わっているが、今日のお話を聴いて自身がもてました。自分の居場所づくりも含めて頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。「地域活性化」の話をもっと時間をさいてほしかった。
- 先進地域の事例を参考に取り入れられるものを国東バージョンにする知恵を出す。今後リーガルチェックをクリアして実効性のある方策を編み出す。
- この取り組みが幅広い住民に喜ばれる活動へとさらに展開していくと良いと思います。
- 気の毒、そこまで迷惑をかけられない。こんな気持ちの高齢者にとっては、外出支援だけで(限定)なく生活全般における何か一点でも支援する。こんな考え方をベースにして、いずれは外出支援、買物支援に広めていきたいと考えている。高齢化している地区においては、各家庭には必ず困りごと、悩み事があることを前提に各家庭と語り合っそのニーズを把握することは大切であろう。とにかく日常生活の中での支え合いを実行することですね。
- 嶋田先生のすばらしい切り込みとアイデアで、外出支援のあり方に対する望ましい方向性を頂いたと思います。子どもも減るから学校を統合することがくり返されてきて、少子高齢化を促進してしまった。乗り手が少ないからバスの便を減らす。便をへらすから乗り手も減っていると思います。いずれにしても対症療法的で、長い年月の先を見こした行政のあり方か先に希望のもてる行政ののぞまれるのでは・・・。
- 外出支援を進める上で改めて、市民を中心に行政、社協、関係機関等多くの方々を主体的に一緒に考えていくことが大切だと感じました。これからの寄ろう会の取り組みを期待しています。
- ニーズ調査等も行いましたが、やはりスタッフ・役員等の声かけが必要だと思います。それによって老人らの横のつながりが出来て参加人数が多くなります。毎月のチラシを見ていないと言う人が話をするとよく耳にします。私の場合は、毎月2回は食事会に行きたいと言う人は、毎月2回TELするのではなく、カレンダーに大きな字で書いて、もし都合が悪ければTELして下さいというやり方で参加者が多くなっています。外出支援も本日の話を聞いて早く立ち上げる方に考えています。
- 熊毛地区は市の中央で買い物、病院などに行くのに不便である。公共のバスがありますが利用ができてない。バス停まで家から遠いし、高齢者や地域の人が助け合っていかなければできない(移動支援)
- 行政はもちろん住民の方の力が不可欠だと改めて感じました。実情の違いによってできることできない事が様々で難しい。
- 通院や買い物など、現に知人に依頼している高齢者がいる地域もある現状。
- 買物や受診等必要最低限の外出は必要です。以前(1～2年前)は利用出来ていたコミュニティバス停まで行けない・・・等の理由があります。通所などのようにドアTOドアで週1回位、地区を区切った支援などが出来たらいいと思います。選挙等も期日前投票などを活用し社会との繋がりを維持して行ってほしいです。
- コミュニティバスの乗る人が少ないと日頃でも感じています。これからは個々の移動手段が大切だと思う。それにはやはり地域の方が良い。路線バスには殆んど人が乗ってない様に見受けられる。これから大変状況。人口の減につながる。都会に行く？これからはもっと若い人の協力必要。
- 私も市町村(社協等でも?)が車を貸与して、委託する方法が一番よいと考えています。以前から考えていました。あとは、小学校単位での活動が、人員不足、運営体のあり方の検討不足等があるのではないかと考えます。いろんな方法がありますので今後、進めてほしいものと考えてます。今後の活動推進を期待しています。頑張ってください。
- 国東半島、放射状の土地。国道までの谷を住民で送迎、国道はバス。 →
- 1%理論、家計調査による地元での消費。
- コミュニティバスを廃止しないで。
- わかりやすく聞けた。今後取り組みの参考になる。
- 地域全体で取り組む大切さがよくわかりました。
- 移動支援がむずかしい。
- 実践的な話でよかった。
- 地域の特性を生かしたこの国東市の取り組みをもっと広めてほしいです。
- 国東市が先進的に取り組んでいるとのこと。今後も頑張ってください。

